



平成31年 3月17日

平成30年度

瀬戸ラグビースクール反省会

1. 校長先生より年度総括

2. 議題

- (1) 瀬戸ラグビースクールの目標・指導方針の確認
- (2) 平成31年度、担当学年（案）について
- (3) 平成31年度、スクール運営分担（案）について
- (4) 平成30年度、会計報告
- (5) その他、検討事項



瀬戸ラグビースクールの目標・指導方針

〇はじめに

私たちラグビー経験者（愛好家）は、ラグビーというスポーツの素晴らしさを体験し、その魅力を次代を担う子供達にひとりでも多く伝えたいという願いをもってスクールを開校しました。

従って、一握りのエリート選手を養成するのが目的ではなく、将来、子供達が自分の意志で部活やスポーツを選択するとき、できるだけ多くの子供達がラグビーを選んでくれることを望んでいます。

そのため心身の発達が著しい児童期にラグビーに必要なスキルとセンスの芽を育てることと、ラグビーの楽しさを体験させてあげたいと思っています。

前へ

アタックもディフェンスも！

勝ったり、勝ったり、負けたり、負けたり、負けたり、勝ったりの
全員参加、全員FW・BKが瀬戸ラグビースクール

〇瀬戸ラグビースクールの基本目標

- ①ラグビーのおもしろさや楽しさを味わう。
- ②心と身体をたくましく育てる。
- ③思いやりと友情の輪を広げる。
- ④ラグビースピリット(One for all, all for one)・マナーを身につける。



平成31年度の指導方針と目標

前へ

Forward (前へ) ・Call (呼ぶ) ・Follow (支援)

F・C・F 「前に低く出る・声を出す・フォローする」に焦点！

全員FW・BKでアタックもディフェンスも前へ

平成31年度指導方針

- ① 安全を最優先に考え相手を敬い、勝利至上主義にならないよう考慮し、基本的にポジションの固定を行わず全員ラグビー、前に出るチーム作りを目指す。
- ② スクールの基本理念に準拠し、限られた時間の中で効率良く指導を行う。
- ③ 共通の認識、目的をもって練習を行い、指導員はチーフ指導員のサポートだけでなく、不得意なスクール生に主眼をおき指導する。
- ④ 高学年である6年生をミニラグビーの集大成とし、中学以降もラグビーを選択して貰い、ラグビーを生涯スポーツとして選択する子を多く育成する。

平成31年度指導目標

- ① 各カテゴリー別スキル目標の達成。
- ② 声を出してコミュニケーションをとる指導。
- ③ ラグビーのルール、用語の伝達。
- ④ サポート指導員による、個人のスキル上達差の縮小。
- ⑤ ゲームを想定した練習方法、サポートプレイヤーの更なる向上を目指した指導方法の開示と指導方法の統一。
- ⑥ 挨拶や時間厳守の基本的な生活態度の指導。

平成30年度指導改善レポート



反省会にあたり指導員の皆様より、指導改善アンケートのご協力を頂きました。その結果をまとめましたので報告致します。

○本年度の指導課題の感想及び反省

① 各カテゴリー別スキル目標の達成。 (年間を通してのスキル目標達成を主眼においた指導)

幼児	概ね実施できた。
1年	ミニラグビーとしてのスキルは順調に達成できている。
2年	前に出る意識はできていますが、ハンドリングスキルの習熟度が低く、パスの精度が低いのは問題と感じています。 リーダーシップのとれる子供は比較的声音も出せるようになってきましたが、声が出せない子はたくさんいると考えます。
3年	ゲインラインの意識付けは前に出ることの意識付けをし、勝負形式の要素で習得を目指した。 無駄なパスが多く、保持した時にヒットとの判断ができない。 3人1組でエビによるダウンボールとオーバーをメインに行い、それに対してのコールを行う練習を行った。 ディフェンスの練習は十分に出来ず、タックルもあまり良い練習方法が見つけれず、スキルアップに繋がる練習は出来ていないように思う。 基本的にポジションは決めずに、個人の希望を尊重するようにした。
4年	4年は“コミュニケーション”“継続”が基本テーマとしたが、それ以外のテーマが他チームのレベルが上がり、ぶれが出たかもしれない。 他学年担当との全体の打ち合わせは必要と感じる。
5年	ラグビーの本質、陣取りゲームという意識、ゲームの全体像を教えながらオフサイドラインなどの説明を取り入れ練習をしてきた。
6年	指導員が勝つ為に何をするか真剣に考えて指導しました。 全般的に達成できたとは言えないレベル留まった。 まだ、何をすべきかを理解し実行できるまでに導けなかった。 達成(に近い)ポイント:前に出るアタック。ラインメイクやポジショニング。 未達成ポイント:前に出ず、受身のディフェンスでタックルが甘い。 ブレイクダウンでの姿勢の高さ。



② ラグビーのルール、用語の伝達

幼児	ゲームを通じて、都度、止めて指導しました。 年中からは少しルールの理解が深まったと判断します。
1年	オフサイド、ノットリリース等のルールは一通り理解している。
2年	試合の都度、説明をしてきたが、用語に関しては意識してはいなかった。 低学年から統一して教えることが出来ていない。
3年	モールの成立等のルールの理解は個人差が大きいように感じた。 特に密集でのノットリリースザボールやオフサイドについては、プレーを止めてルールの説明をするようにした。 用語については意識して使うようには心がけたが、どの程度理解してもらえているかは、よくわからない。
4年	子供にとっては当たり前ではないと認識して、必ず練習の目的を話し、用語やルールの理解は子供たちに確認した。
5年	ほとんどの生徒は思いのほかラグビーを観ているが、理解していない生徒も見受けられた。その生徒は分からないまま、練習をしているところがあるのでしっかりと教えて理解させないといけない。
6年	用語の説明を度々しないといけなかったので、子供達に通じていないと判明しました。 新しくラグビー用語が出たときは解説するように意識した。

③ サポート指導員による個人のスキル上達差の縮小

幼児	ナカナカ改善できませんでした。幼児は手がかかります。
1年	スキル差は縮小していないが、続けていれば向上する。
2年	経験値による個人の能力差は感じられるが、2年生の多くはスクール外でも練習しているなど感じており、スキル差は縮小傾向にあると考えます。 新しい練習、アップ方法を学ぶ必要があるのでは？
3年	意識してお願いしていませんでした。途中から入った新規登録の子がいるときにお願いすればよかったように思います。
4年	子供の個人差はどうしても出るが、この学年はその差が少なかった。 せめて“前に進む”意識は持てたと思う。
5年	せっかく指導員が3～4人いるのだから、全体とは別に個別に指導してはどうかと考えた。
6年	皆さん、意識、知識、スキル高くて素晴らしいと思いました。 比較的若手で、指導部が多かったからかもしれません。 指導員の指導スキルの差、世代による差がまだあるので、改善したい。



④ ゲームを想定した練習方法、サポートプレイヤーの更なる向上を目指した指導方法の開示と統一

幼児	練習前に指導同士で練習メニューの意志疎通を継続して実施。ランやパス等、ゲームに係るシーンのイメージ共有を図りました。
1年	9月以降モール・ラックの練習をしていたが、タグラグビーとなり指導方法の新規作成が必要。
2年	どちらかという想定した練習よりも交歓会などの課題を練習している感じです。ゲームがないと課題が見えてこないのが私の現状。
3年	笛を使わずサポートプレイヤーによるハンマーでモール形成、ラックの基本練習を多く行い、サポートや相手に捕まらない身体の使い方を考慮した。
4年	ゲームを想定した練習はウォーミングアップから意識した。全体的にはタグやタッチ、鬼ごっこなどで工夫するべき。サポートは、基本と実戦が今一步徹底できなかった。指導方法は、ややコーチの意識に差がみられ、うまくはいかなかった。指導方法の開示や統一は、コーチミーティングやWEBなどの活用が必要。
5年	練習には反復練習とゲーム性を持った練習があると思うが、反復練習が多いと思う。反復練習は上手くなるには必要だが、ゲーム性を持ったより実践的な練習が必要。
6年	毎回、試合練習の時間を固定して取る。その開始時間をあらかじめ決めておいて、他の内容の練習を組む方が効率的だと思います。今年は毎回、各学年の試合練習時間をすり合わせるのが大変で、毎回時間がズれるから、練習内容が落ち着かないように思いました。なるべくゲーム形式に近い練習を心がけた。

⑤ 挨拶や時間厳守の基本的な生活態度の指導

幼児	ここはしつこく指導しました。
1年	今のままで良い。
2年	挨拶は意識して指導してきました。時間厳守については低学年＋親の生活習慣等も考えられるので厳しいことは言いませんでした。しかし、練習に遅れてくる子は多いと感じます。話を聞く時の集中力をアップさせる事が出来なかった。
3年	出欠確認時に元気よく返事をする事と、集中していない子には名前を呼んで促し、練習後は後かたづけの手伝いの呼びかけを行った。
4年	挨拶はまだ自発的にできていない。練習スペースに水筒や用具を横一列に並ばせるようにしているが、最初だけで、飲んだ後もフォローする必要があったかも。
5年	北先生がびっしりやって下さるので完璧かと。
6年	全員、グラウンドに入る時にグラウンドありがとう、と言う意味を込めて会釈する。形から入って、感謝することを覚えてもらうのも、瀬戸ラグを発展させて行くには、これからの文化を作るのに必要ではないかと思いました。返事や、話している人間を見ることを促した。それぞれの家庭教育の差が大きいので、どこまで介入するかが課題。



○来年度への課題と改善策

<幼児>

課題	改善策
タグをしっかりとつけてプレーできるか。 タグラグビーをスムーズに導入すること。	タグラグビーが理解できる伝達講習の実施。

<1年生>

課題	改善策
タグラグビーへの対応。	現状は練習メニューが手探りの状況。 タグラグビー用教材を提出して欲しい。

<2年生>

課題	改善策
ハンドリングスキルの向上。 試合中の声かけ。 ラック→オーバー→マイボールの基本動作の徹底。	手つきをよくする。普段からボールに触れる機会を増やす。 意識の向上。 新しい指導方法を学習しA、Dの練習を増やす。

<3年生>

課題	改善策
ラックから少し遠くの味方へのパスができるようにしたい。 ディフェンス全般。	パスをした方が有利になることの説明し指導する。コーチ講習で教えてもらったパスの方法を試してみたい。 タックルスキルアップ練習を主として、特に動くボールキャリアへのタックル練習の実施。

<4年生>

課題	改善策
取られても取り返す気持ち。 フォローする。 ディフェンスもシステムは教える。 指導部でカテゴリー別の指針を出しているが、指導現場にて対応されているか？	リーダーも必要。本当は全員で。練習の時から意識づけする。 まずパスで繋ぐ→ダメなら二人目が寄る。 揃って出たり、仲間通しで声掛けする意識。 シンプルに指導項目を絞り、練習内容のスケジュール化を行う。



< 5 年生 >

課題	改善策
ラグビーの理解度の習熟。	時間が少ないが、机上で教えることも大事。
試合の流れを理解させ、次に何をやるかを理解させる。	アップの代わりに、試合の流れで体を動かす。競争は好きであるのでゲーム性を持った練習を中心にする。
指導員の指導方法。	否定的な指導が多く思い、答えを与えず。褒めることが少ないように思い、考えさせる指導と指導者が介入する指導の両方が必要。

< 6 年生 >

課題	改善策
声が出ない、コミュニケーション不足、ラグビー用語を理解していない。	その都度、質問をして確認する。
パス、キャッチングの練習不足。	パスはタグラグビーでスキルアップできる。少しでもボールを触ってもらうことが大事。
練習の強度が弱い。	
体力、体格が劣る。	体力については、日常生活での向上を家庭で意識してもらう。
ラグビー理解が不足。	映像を教材として使用し、解説しながらみんなで視聴するのはどうか。



○ 各カテゴリー別、本年度のスキル目標上達度と
次年度への 連絡事項

※複数の回答があった学年はチーフ指導員以外を（%）で表示

<幼児>

スキル目標<幼児/U06> ◇基本的な体作り(柔軟性、体幹、敏捷性)	達成率
前に出られる子を育てる。【前進】	<60%>意識付けはできました。
動きながらの手渡しパス(ガットパス)の習得。	<60%>練習に取り入れました。
走り方の習得。	<60%>練習に取り入れました。前傾姿勢の理解度は高まりました。
タックル基本の習得。(捕まえたら放さない)	<30%>個人差がどうしてもでました。

☆ 課題はタックルですが、来年度からラグビーになるため本件は次年度に送れません。
U8以下は、ラグビーになりますので、指導員のラグビーに係るルールや練習方法の勉強が必要です。

<1年生>

スキル目標<低学年/1・2年生/U08> ◇基本的な体作り+組織プレーの発芽	達成率
前に出られる子を育てる。【前進】	<70%> (60%)
色々な走り方の習得。	<20%> (60%) ボールを持てばまっすぐ当たるように指導した。
コンタクトの基本姿勢の習得。	<60%>
パス&キャッチの習得。(ガットパス・ポップパス)	<30%> (60%) パスより当たってからモール・ラックを指導した。
サポートプレーの意識付け。	<70%> (60%)
タックル基本の習得。(捕まえたら放さない)	<60%>

☆ 小2以下がラグビーとなったため、根本的に練習メニューを変更必要あり。



< 2 年生 >

スキル目標<低学年／1・2年生／U08> ◇基本的な体作り+組織プレーの発芽	達成率
前に出られる子を育てる。【前進】	<80～90%>概ね問題ないレベル。
色々な走り方の習得。	<80～90%>概ね問題ないレベル。
コンタクトの基本姿勢の習得。	<70%>まだまだスキルアップが必要。
パス&キャッチの習得。(ガットパス・ポップパス)	<50～60%>もっとスキルアップが必要。
サポートプレーの意識付け。	<80～90%>概ね問題ないレベル。
タックル基本の習得。(捕まえたら放さない)	<70%>まだまだスキルアップが必要。

☆ 試合になるとタックルが高い・密集（ラック）時のボールへの執着が足りない。
 現2年生が全員持ち上がると15名を超える大所帯になります。まだまだ幼いので練習中の待ち時間が増えると、どうしてもラグビーに集中できない状態になります。熱心な子たちが多いです。集中力を持続し、練習に励めれば強いチームができるのではないかと考えます。
 双子の生徒がいます。どうしても顔と名前が一致できませんでした。
 自分ができなかったことを押し付けるのも、．．．と思いますが、早く特徴をとらえ声掛けしてあげられるようお願いします。
 個人の良いところを誉めてあげてください。

< 3 年生 >

スキル目標<中学年／3・4年生／U10> ◇コンタクトプレー+組織プレーの習得	達成率
ゲインラインの意識。【前進】	<70%> 横に走ってしまう。
サポート・コンタクトプレーの習得。(ダウンボール)	<80%> サポートに入れるようになった。
モール・ラックの習得。	<80%> 理解度は高まった。
前に出るタックルの習得。	<50%> 前には出るが、タックルは課題。
パス&キャッチの習得。(ガットパス・ポップパス・平パス)	<50%> 練習があまり出来ていない。
ターンオーバーの意識付け。	<70%> 取り返す意欲はある。

☆ 出席率が高く、やり易かったと思います。たまにふざける子もいますが、この学年にしてはコーチの言うことを聞く方だと思います。基本的には運動が好きなので、集中力が無いときは遊び要素から入った方が良かったのかなとも思いました。
 ピック&ゴーが多く元気よくプレー出来ているが、上級学年になると通用しなくなってくるので、近くの無駄なパスが多いので、モールやラックから少し遠くにいる味方にパスができるようなスキルを身につけさせることができると良いと思う。
 ディフェンスは、動くボールキャリアに対するタックルができるようにしたいと思う。



< 4 年生 >

スキル目標<中学年／3・4年生／U10> ◇ コンタクトプレー＋組織プレーの習得	達成率
ゲインラインの意識。【前進】	<70%>
サポート・コンタクトプレーの習得。(ダウンボール)	<80%>
モール・ラックの習得。	<60%>
前に出るタックルの習得。	<30%> 前に出る意識は教えているが、タックル練習はほとんどしていません。
パス&キャッチの習得。(ガットパス・ポップパス・平パス)	<50%>
ターンオーバーの意識付け。	<50%> 時間を取ったがゲームでできていない。マイボール処理の判断がまだできていない。

- ☆ この学年はすごく素質のある子供も多く、力の差が少ない学年だと思います。細かいことは言わず、アタック中心に、ブラインドを使ったり、S O の間に人を走らせたり少し教えてあげて、自分たちでプランを考えさせても良いと思う。高学年になれば安全面からも、タックル・ブレイクダウンの基本練習は欠かせない。個々のプレーについて全く手が付けられなかったが、変な癖がついてないので基本的な事から指導できれば、もっとラグビーが好きになるのではと思う。

< 5 年生 >

スキル目標<高学年／5・6年生／U12> ◇ ミニラグビーの集大成＋組織プレーの成熟	達成率
前に出るアタック・ディフェンス。【前進】	<アタック50%> <ディフェンス10%> アタックは積極的だが、ディフェンスは一部の者を除き出来ていない。アタック練習よりディフェンス練習を重視した方が良い。タックルに手から行く子が圧倒的に多い。
全員フォワード、全員バックスの育成。	<20%> ゲーム全体の流れを意識してやってきたが、十分ではなかった。スペースへの意識不足。
ラグビーの理解度を高め、ポジショニングの意識付け。	<30%> ルール、理由を説明したが、ゲーム性を入れた方が実戦的で良い。ポイントに寄ってしまうし、外でなく内に入る。
サポート、コンタクトプレーの成熟。 (肩で当たるタックル・ダウンボール・パス・キック・ブレイクダウン)	<50%> ラックは短期的、タックルは長期的に取り組む練習プランが必要。

- ☆ 普段の練習、試合では余り感じられないが交換日記を見ると、思ったよりとも考えているし勝とうという意識がある。それをバックアップするのがコーチングだと思うので、来年度はもっと勉強しようと思う。



< 6 年生 >

スキル目標<高学年／5・6年生／U12> ◇ミニラグビーの集大成＋組織プレーの成熟	達成率
前に出るアタック・ディフェンス。【前進】	<50%> 相手によって違いすぎる。
全員フォワード、全員バックスの育成。	<50%>
ラグビーの理解度を高め、ポジショニングの意識付け。	<70%>
サポート、コンタクトプレーの成熟。 (肩で当たるタックル・ダウンボール・パス・キック・ブレイクダウン)	<60%>

☆ 全体的な達成率は80～90%と思いますが、個人差があります。指導員は生徒が自ら動く促しや、質問の仕方に更なる向上が必要だと思いました。
本気になれる子が数人いるので、限られた環境のなかで、より良いラグビー体験をさせてあげてほしい。

○ 所感

- ・ U8以下は、タグラグビーになりますので、指導員のタグラグビーに係るルールや練習方法の勉強が必要です。
- ・ 11月の交歓会後にミニラグビーを止めてタグラグビーの練習に切り替えたが、接触プレーが無い為、ラグビーをしている実感が乏しい。
- ・ 今年一年チーフとして指導させていただきましたが、未経験の私がラグビーのスキルを教えることは非常に難しく感じました。正直、自分が子供たちのスキルアップに役立てたとは思えない状況で、子供たちには申し訳なく感じています。サポートしてくれる皆さんのおかげで一年乗り切れたと考えています。
- ・ 子供たちは楽しくラグビーをしています。3年生になりますので、自分たちの意思でラグビーをやりたいと言って、続けてくれたら嬉しく思います。
- ・ トータルでは基本動作はできるようになってきている。更なる継続。
- ・ コミュニケーションなども、練習や試合の途中で子供を集めて、話をさせてみる→それを練習中もできるように。言葉を出すまで、かなり時間がかかるので、コーチも辛抱強く！時間の厳守が出来ていないので、親御さんにインフォメーションし終了時間も徹底する。
- ・ ゲーム中心の練習で、子供達はあきる事なくラグビーの楽しさを感じたと思う。但し、タックル、ブレイクダウン、フォローアップ等の個々のプレーについての習熟度アップははかれなかった。
- ・ 低学年は実技を中心に教示した方が良いと思うので、生徒と一緒にプレーをしながらコミュニケーションを取りたい。



- 同じ学年の中でも、スキルや運動能力の差があり、試合になるとボールにほとんど触れない子もいるが、チームが勝てば一緒に喜び、負ければ悔しいのは同じようだった、勝てれば出てない子もとても喜んでるのが印象的だった。
- 勝ちにこだわりすぎるのもどうかと思いますが、生徒は勝ちたい。トライをしたい。と思っているので、可能ならば練習を増やしてもいいのでは。と思います。
- 毎年、指導員間に温度差を感じます。全体主義ではないからそれは仕方ないかなあと思っています。それを含めて瀬戸ラグの良いところでしょう。
- 近年、スクール全般に運動能力に秀でた生徒があまり多くない印象。運動能力が高い子は、競技レベルの高いクラブに入るだろうから、勝利至上主義ではない当スクールで「せめて少しでも運動させたい」と思う家庭方針が背景と思われる。それをどこまで引き上げるのか。一方で、負けてばかりではやる気が無くなる。「勝つ喜び」との両立ができればと思う。
- 「本気」になる瞬間を体験しておけば、肉体的に成長したときに「良きプレイヤー、人間」になる糧になると思う。勝っても負けても本気になることを意識したい。
- 今まで通り勝ったり負けたりで、参加生徒全員に気を配ってあげて欲しいです。
- 「難しい事をやさしく、やさしい事を深く、深い事を愉快地に、愉快的な事をまじめに伝える」という話がありますが、ラグビーも同じと思っています。
- 常に小学生のうちは固定せずいろいろなポジションを経験してもらいたいと思います。
- オーストラリア遠征時に、幼児等の試合では圧倒的な勝利。ゲームが終わってからは、何十人となるチームでの遊びの様な試合。「皆ラグビーが好きなんだ」と実感させられました。とにかく「ラグビーが好きなら子にすれば良い」と思います。楽しく出来れば、後は中学、高校、大学と伸びていけばいい。
- 「開校当初からの考え方」をこの先も大事に守っていく事が、更なる発展の為に大切だと思っています。
- 子供は基本的に競合することに興味があると思うので、積極的にそれを利用しゲームを想定したメニューや練習を考える。
- 味方を鼓舞する声は勿論のこと、ラグビーは他のスポーツと違い基本ボールキャリアが先頭で前方には味方がいないのが通常なので、それをサポートするプレイヤーの状況伝達等の声の重要性を指導する。
- 120人を超える生徒さんが確保できている時にこそ「きつい練習が楽にできる」とおもいます。ラグビー経験者が多い指導員は自分たちが毎日ラグビーをしていたと思います。ところが生徒さんは2週間に1回で年間たかだか50時間しかありません。もっと工夫して「時間を有効に」つかいましょう。



○ 現状分析

- ①指導員のスキル目標達成への認識不足と継続の必要性。
- ②ハンドリング（パス）のスキルアップ。
- ③声（コール）が出せない。
- ④ディフェンス指導の充実。
- ⑤ラグビーの理解不足。
- ⑥タグラグビーを含めた、更なる指導方法の学習と共有。

○ 結論

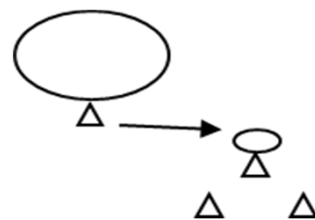
- ①指導員の意識改革。スキル目標達成を主眼におき、年間を通じた計画的な練習を立て、積極的に練習時間前や後の時間を使い、意思統一したゲーム想定練習メニューを考え共有する。

A)ゲーム中の姿勢：膝が伸び切らないようにレスリングスタイル。オンプレー中は常に身長70～80%の高さの姿勢を維持し、腕は脇をしめ、腹の前に出して構える。

B)パス：パサーは、投げたい方向へのフォロースルーを確実に。レシーバーはハンズアップして必ずキャッチの準備をする。キャッチは「受ける」より「取りに行く」イメージ（アーリーキャッチ）。

C)オフenseアタック：低中学年はパスの必要性低く、高学年でもラインアタックまでの指導は簡単ではないので、アタックはランナーを中心としたユニットで動く意識を持ち、その中でショートパスを活用する。ランナー以外のサポーターの動きを最も重視する。

右図のアタック基本陣形の徹底→



D)タックル(コンタクト)：安全最優先で。全カテゴリーを通し、転ぶ（受ける）練習（手から落ちないように、あごをひいて後頭部を打たないように丸くなる）も並行して必ず行う。クラウチの姿勢（手を広げない「ツバメ」）を作り、相手の腹から太ももの間をターゲットにする事を最終目標とし、肩でコンタクトすることを最低限指導する。高過ぎず（スマザータックルは×）、低過ぎず（膝下へ肩を入れるタックルは×）。姿勢の高低は膝を使うよう指導し、頭を下げさせない（目線が真下にいった危険）。逆ヘッドは厳しく指導修正。



E)コミュニケーション : サポートするプレイヤーの試合状況や要望を伝える「呼ぶ」声かけ。学年が上がるにつれ、受け手が聴く意識も持つように指導。

F)ブレイクダウン(ダウンボール) : サポートプレイヤーへの確実なパスが無理な場合は、モールを形成→ボールが出せない時はダウン→ラック。相手に捕まりダウンボールする際はサポートが付いてからダウン(スリップダウン)する(ボールキャリアはサポートが付くまでは立ってプレーし、サポーターは背番号が見える位置から密集に参加)。ダウンしたらすぐリリースするのではなく必ずワンプレーし、できるだけ自陣方向へ遠くにリリースする。(苦し紛れのパスはNG)

- ②基本的なパスの技術を指導し、ミスなくパスをつなぐというハンドリングスキルの習得を目指す。普段から身近にあるボールに触れ(空間把握能力の向上のため)、練習外でもできるだけ多くの時間ボールに触れる機会を持つよう伝える。
- ③日頃から声(コール)の重要性を訴え、自主的にできるように指導する。
- ④アタックばかりでなくディフェンス練習時間も設けて、規律ある組織ディフェンスを伝える。
- ⑤今以上にラグビーに興味を持つように促し、生活の中でラグビーに触れる機会を増やす。可能であれば、映像などを使用して理解度不足を解消する。
- ⑥①と同様に指導員の意識と努力。

○各カテゴリー別スキル目標



■ 幼児・低学年／U 0 7

◇基本的な体作り(柔軟性、体幹、敏捷性) + 組織プレーの発芽

- ①声（コール）を出してコミュニケーションを取る。
- ②走り方の習得。
- ③動きながらのパス&キャッチの習得。(ポップパス・ショートパス)
- ④スペースへの意識付け。

■ 低学年／2年生／U 0 8

◇基本的な体作り+タグからミニへの準備+組織プレーの発芽

- ①声（コール）を出してコミュニケーションを取る。
- ②色々な走り方の習得。
- ③動きながらのパス&キャッチの習得。(ガットパス・ポップパス・ショートパス)
- ④積極的なスペースへの意識付け。
- ⑤サポートプレーの意識付け。
- ⑥コンタクト&タックルの基本姿勢の習得。

■ 中学年／3・4年生／U 1 0

◇コンタクトプレー+組織プレーの習得

- ①ゲインラインの意識。【前へ】
- ②パス&キャッチの習得。(ガットパス・ポップパス・平パス)
- ③サポート・コンタクトプレーの習得。(ダウンボール)
- ④モール・ラックの習得。
- ⑤前に出て肩で当たるタックルの習得。(規律あるディフェンス)
- ⑥声（コール）を出してコミュニケーションを取る。

■ 高学年／5・6年生／U 1 2

◇ミニラグビーの集大成+組織プレーの成熟

- ①前に出るアタック・ディフェンス。【前へ】
- ②全員フォワード、全員バックスの育成。
- ③ラグビーの理解度を高め、ポジショニングの意識付け。(規律あるディフェンス)
- ④サポート、コンタクトプレーの成熟。
(低く肩でヒットするタックル・ダウンボール・パス・キック・ブレイクダウン)
- ⑤声（コール）を出してコミュニケーションを取る。

■ ジュニア／中学生／U 1 5

◇更なるラグビーのスキル+理解度

- ①基本スキルの充実。
- ②身体づくり。
- ③自主性の達成。
- ④ミニからジュニアの違いを理解する。



平成31年度 瀬戸ラグビースクール指導員担当学年

学年	担当 (※はチーフ)	備考
幼児	※加藤(淳) 小出 河村(寿) 穉丸 河村(直) 新実(美)	タグラグビー
1年生	※平田 加藤(尚) 岩本 松野(烈) 新実(雄)	
2年生	※吉田 曾我 加藤(孝) 寺田	
3年生	※北(俊) 堀尾 佐藤(広) 伊藤 磯村 若杉	ラグビー
4年生	※市野 北(圭) 山田 大本 鶴飼 水野	
5年生	※屋田 安蒜 田中 竹下	
6年生	※江口 浅村 横山 市野(明)	
中学生	※松本 高島 森川 加藤(駿) 横山(兼務) 加藤(孝)(兼務) 堀尾(兼務) 伊藤(兼務)	
母親ラグビー	※安蒜 フリーのメンバーから応援	
フリー	光武名誉校長 松野 水谷 高石 大澤 谷川 酒井(浩) 須崎 下古谷	必要に応じ ヘルプ
	尾崎 亀井	



平成31年度 瀬戸ラグビースクール運営分担表

部	役割担当	氏名				
		現担当	以下、部員です。役割分担は、部員で協議し決定下さい。			
事務部	会計	市野	市野	北(圭)	松本	横山
	スポーツ保険・登録	市野	下古谷	松野(烈)		
	名簿・連絡網	横山				
	皆勤賞	松野(烈)				
	対外試合の調整	松野(烈)				
	スクール委員会	横山				
	ユニフォーム手配等	山田、鶴飼				
協会部	会計	横山	竹下	横山	須崎	加藤(孝)
	グラウンド予約	竹下	曾我	新美(雄)	新実(美)	
	春の高校生・中学生大会	竹下				
	秋の中部杯	松野(烈)				
	体協行事	加藤(孝)				
	体協の打ち合わせ	加藤(孝)、竹下				
	遠征時のバス手配等	須崎				
指導部	指導方針・年間練習計画	屋田	屋田	平田	松本	森川
	ルール伝達	加藤(淳)	高島	加藤(孝)	加藤(淳)	市野
	担当学年調査	江口	吉田	北(俊)	江口	
	春と秋の母親ラグビー	安蒜				
広報部	隔月のお便り	竹下	浅村	河村(直)	北(俊)	安蒜
	ホームページ	市野				
	募集案内	浅村				
	記録写真	森川				
	修了証	北(俊)				
中学部	秋の大会	松本	松本	加藤(孝)	谷川	高島
	冬の新人戦	松本	伊藤	堀尾	横山	加藤(駿)
	イーストリーグ	松本				
	選抜大会引率	中学指導員				
	対外試合の調整	松本				
	スクール委員会	松本				
行事部	夏の合宿(会計・部屋割り・しおり)	田中(直)	田中(直)	河村(寿)	北(亮)	新実(雄)
	やきそば大会	安蒜	新実(美)	北(俊)	加藤(尚)	高島
	冬のもちつき	高島、新実(雄)	須崎	竹下		
	新年会・忘年会	横山				
物品管理部	用具の管理及び注文	堀尾	大本	山田	岩本	安蒜
	救急箱の点検及び補充	松野(烈)	下古谷	鶴飼		
	リサイクル関係・器具個の整理整頓	河村(直)				
α部	その他色々	上記に以外の指導員にて				